

自然散策。

■社員とのコミュニケーション

平成2年に行徳工場を開設したとき、社員用の「ワンルームアパート」を市川に建てた。

以前は香港・ハワイなどの2泊または3泊の年間旅行を行って、社員のコミュニケーションを図ってきたこともある。

■今後の展望

今までの知識・技術をもとにして、技術革新に対応していく。

「土木建築基礎工事に、当社が開発した、数多くの軟岩・岩塊の掘削実績を持つ「バイトの掘削技術」を建設工事にさらに活用を図っていく。」

この技術力を誇りをもって守って行くと共に、さらに高度な技術に発展させていきたい。

激務ゆえ、健康にはくれぐれもご留意を。

(事務局 葎田 誠作)



ここにこんな人が  
わたしの履歴書

(株)角藤 常務取締役 土木基礎本部長 久保田 修一

今回は事務局が東京にご出張中のご多忙な久保田常務にお会いしてインタビューしました。



久保田 修一(くぼた しゅういち)  
昭和23年1月17日長野県生まれ  
昭和45年 (株)角藤入社  
平成19年 常務取締役に就任

■郷里・幼年時代・学生時代

長野市から北西に車で約1時間、戸隠村と白馬村の間にある鬼無里村(現在は長野市に合併)に生まれた。長野県では、長野市を含むこの地域を北信地区と呼ぶ。同じ北信地区に日本の唱歌を代表する名曲『故郷(ふるさと)』を作詞した高野辰之が生まれた豊田村があり、鬼無里も『ふるさとの歌詞(兎追しかの山、小鰯釣りし...)』と同じ山と川がある静かな山里。雪解けとともに群生の水芭蕉が花咲く、春は自生するワラビ、ゼンマイとり、夏は川で岩魚や鰻とり、秋は茸や栗拾い、冬は夕方に毘を仕掛けて朝に見に行く兎

とりに興じた。中学校から長野市へ。高校のとき全校生徒の10kmマラソンで常に上位に入る。運動は苦手であったが、耐久力と頑張りが特性。また、歴史や考古学に興味があり、発掘クラブで長野市善光寺裏手地附山古墳群(7世紀頃)の測量から発掘に携わり、そのとき石棺に単純ではあるが、長野県以東で初めて朱色の絵図が発見された。

大学生の頃は、近代文学(島崎藤村、森鷗外、太宰治、夏目漱石、石川啄木、樋口一葉など)や歴史書(井上靖の日本の歴史、G・チャイルドの文明の起源、羽仁五郎の明治維新など)を読みあさった。

■社会に出て

昭和45年に(株)角藤に入社、コンクリート既成杭工事の営業に携わる。入社数年を経た頃から自分のやっている仕事に疑問を持ち始める。コンクリートパイルをメーカーから購入し、施工は下請にやってもらう、人から与えてもらうものを買っているだけの商社。機械も技術も持たない事業が永く続くはずがないと思った。そこで、社の現会長に『自社で自らが施工力を持ちたい』と直訴し、クローラ式3点杭打機3台を購入、既成杭施工を開始したのが昭和54年、その後、ロックオーガ杭打機、全周回転掘削機(CD機)などを導入、昭和59年に基礎工事を設立、昭和61年に基礎工事部長に就任した。平成に入ってバブルがはじけ既存の保有する機械や工法だけでは成り立たない日が来ると思い、自分らが得意な分野で発展する方向がないか考えたところ、得意な分野は硬い地盤、ならばと、山岳地帯の土木に取り組むことにした。まずは機械よりも人材と考え、土木の設計部門を立ち上げるとともに、測量・施工計画・施工管理がGC(ゼネコン)よりも優れた技術力を持って行えるよう現場管理者を育成。既存の基礎工事分野を残しながら法面工事、地滑り抑止工事、災害復旧工事などの土木分野へ向い、平成9年に基礎工事を土木基礎工事に名称変更し、取締役土木基礎本部長に就任する。

その間、ダンザホールハンマ、アースアンカー、自社特許のALEX、スーパークラッシュバイラー機などを導入するとともに、国土交通大臣/建設コンサルタント・測量業者登録がなされ、平成19年4月常務取締役に就任した。

■信条

歴史が好きで、所蔵する歴史書や小説は3,000冊を超え、出張すれば電車の車中で、自宅でも夜は読書にふけるとか。

中国に『天の時と地の利』と言う言葉がある。人間は数千年の歴史があり、我々が歴史上で知りうる人たちが考えたこと経験したことは一人の人間が一生涯かけて知り得る知識量と比べ天文学の数値ほどの違いがある。『地の利』とは数千年の間に人類が蓄えた『利益』または『財産』であり、『天の時』とは『チャンス』であると言う。歴史から、また、歴史に登場する人物から学んでいればチャンスは自ずと掴めると。信条は『歴史から学ぶ』であると言う。

姓名学による鑑定でも、宿命的運・才能(情報・知識)・人柄(温厚・誠実)・環境運(後盾の人が現れる)・姓と名の調和(自分の考えが明確・主張する勇気を持つ)が大吉。

強固な意志力・包容力・慈悲心をもつ性格円満人(周囲の人から好かれる)・再興発展運(会社を躍進させる)をもつ人・目立たぬところで勤勉な努力を続ける人とか。

■人生の師と良き理解者・理念

社の現会長を師と仰ぐ、『失敗を恐れるな、プロセスを大事に』、また、『情の管理・知の管理』を常々教育された。

あるとき、現場においてミスにより大きな損害を出したことがあった。その際に会長から『部下たちをしかるなよ、発注者には全てを包み隠さず報告せよ』と言われ、その一言に感銘をした。土の中は事前に予測できないことも多く、大きな失敗や損害を出すこともある。

現社長は良き理解者であり、『失敗したことで制裁を科すことはしません、その失敗を皆で共有できるように公にしましょう』と言われる。最近、マンションなどの構造計算偽造や食品の偽装などが発覚して、何とか隠そうと言い訳で繕う場面を見るに隠せば隠すほど自らを滅ぼすことになると気付かない経営者が嘆かわしい。

社のトップは、良き師、良き理解者であり、その教えの究極は『透明と共有』であろうと、白部門のISO基本方針に謳い、自らの理念としている。

■今後の展望

公共土木工事は、国も自治体も財政難から予算を大幅に減らさざるを得ず、多くのGC(ゼネコン)や専門業者は厳しい経営環境化にあるが、日本の国土は急斜面や河川などの危険箇所が多く地震も多い、地震や洪水・土砂災害など自然災害への備えは不十分、これらの対策や復旧事業は決してなくなることはない、設計や工事における技術力、提案力を持っていれば、自ずと仕事が入って来ると考えている。

また、平成15年2月に土壤汚染対策法が施行されたことを切っ掛けに土壤汚染事業への取り組みを開始する。環境省に土壤汚染指定調査機関として登録を認められ、汚染土壌の調査・リスクマネジメントから措置工事も行っており1つの事業となりつつある。

激務ゆえ健康にはくれぐれもご留意を。

(事務局 葎田 誠作)

編集後記

協会ニュース発刊にあたり、執筆者の皆様にはご多忙のところご協力頂きまして誠に有難うございました。(編集分科会)